

サポセンだより

NPO 法人若年認知症サポートセンター通信

2013 年 3 月 18 日発行

創刊号 Contents

巻頭言「今後のサポートセンターの役割」 宮永和夫	・・・1
「若年認知症専門員」認定研修の紹介 小野寺敦志	・・・3
全国若年認知症連絡協議会コーナーVol.1	・・・6
ゆうゆうスタークラブ活動報告 勝野とわ子	・・・8

巻頭言「今後のサポートセンターの役割」 理事長 宮永和夫

日頃よりご支援いただき誠にありがとうございます。NPO 法人若年認知症サポートセンター（以下、当センターと略）は、若年認知症家族会・彩星（ほし）の会の専門家等のサポーターが組織化していく中で、平成 19 年 4 月に発足いたしました。まもなく 6 年が経とうとしています。これまで彩星の会の支援を中心に、全国の若年認知症家族会の立ち上げや運営を人的・物的に支援することを目指してきましたが、まだ道半ばといえます。

今回、当センターではホームページの全面的な更新と共に、会報にて会員同士の情報の共有化を図ることになりました。もちろん、実際に当センターとして行動する場合には、理事会で議論したのち、総会で承認を頂いてからのこととなります。ここでは、今までの当センターの活動を振り返りつつ、これからどのような活動をすべきか私論を述べてみたいと思います。



1. 各地の家族会の設立支援を継続したいと思います。

現在、北海道から沖縄まで 32 の家族会や支援者の会が「全国若年認知症・支援者連絡協議会（以下、全国協議会と略）」に参加されています。しかし、全国協議会に参加されずに地域で活動されている家族会はまた多くあると思います。当センターも新しい家族会の設立支援を継続してゆきたいと思っていますが、全国協議会への参加の有無は別としても、情報を発信したり共有化することは大切だと思います。是非なんらかの形で繋がっていききたいと思います。また、全国協議会の要望を入れながら、是非当センターのホームページの充実を図って行きたいと思います。



全国協議会の代表者会議の様子。27 団体の代表者 40 名が集まり、活発な意見交換がなされました。

2. 全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会の物的・人的支援を継続したいと思います。

当センターが中心となり、全国協議会が設立したわけですが、昨年から協議会は当センターの一部の支援は受けるものの、独自に行動化すべきとの意見があり、『第 4 回全国若年認知症フォーラム IN 奈良』では、「若年認知症サポートセンター絆や」「朱雀の会・若年認知症家族会」を始めとする地域の関係者を中心として、奈良県新公会堂能楽ホールで盛大に開催されました（詳細は、ページをご覧ください）。300 名を超える市民の参加があり、今回は若年認知症の地域連携をアピールする場として非常に有効だったのではないかと思います。今後も協議会の発展を願い、物的・人的支援を継続していききたいと思います。

3. 若年認知症が関連するオレンジプランの内容を具体化したいと思います。

平成 24 年度に発表された厚生労働省の認知症施策推進 5 か年計画（オレンジプラン）を、次ページのように簡単な表にしてみました。

この中から、若年認知症に関連する項目について提案したいと思います。



1) 若年認知症施策の強化として支援ハンドブックの作成

これは当センターでも先行的にハンドブック作成を試み、ほぼ完成しました。今後、全国の家族会などに配布する予定ですが、同時に誰でも利用できるように当センターのホームページにも掲示したいと思います。今までにも、東京都や北海道などが作成し、配布された冊子がありますが、若年認知症に特化した必要項目が含まれていないものもあります。当センター作成の冊子においては、それらを補いながら、また課題が生じた場合は出来るだけ早く対応できるようにホームページを活用して行きたいと思っています。

2) 認知症ケアパスの作成

都道府県単位と区市町村単位に分けられ、いずれも既に作成した地域と着手されていない地域があるようです。すでに作成した地域においては、普及させ活用すべきでょうが、使いにくかったり、それを主導する機関がはっきりしないこともあるようです。ただ、作成の有無にかかわらず、若年認知症の相談・受診・福祉などのパスは、内容を確認し、再構築すべきであろうと思います。

次年度以降、各地の実態を調査し、活用できるものを全国に広めたいと思っています。

3) 本人・家族の支援強化として「認知症カフェ」の設置

新しい支援の手段として、有効と思っています。今まで、当サポートセンターで試みていた地域開放型の「ゆうゆうスタークラブ」、就労支援型の「ジョイント」やジョブサポーター支援による新宿区立障害者福祉センター内の「喫茶ふれんど」などは、「認知症カフェ」のひとつのパターンになると思われます。資金が厚生労働省より都道府県を経て市町村が実施することになっていますので、是非市町村と協働して、同様の施設を全国に設立して頂きたいと思っています。これらの活動拠点作りを通じて、若年認知症の本人・家族の地域参加が一步前進することを願っています。

4. 若年認知症の当面の課題を解決したいと思います。

1) 高度障害の問題

住宅ローンに関係した高度障害の認定は喫緊の課題です。この問題は、関連医学会と協力して、是非早期に解決したいと思います。認定された例と認定されなかった例、いづれも必要です。是非、全国協議会の事務局に、多くの事例の提供をお願い致します。

2) 障害年金の問題

障害年金を受診後1年6ヶ月でなく、早期(6ヶ月)に申請可能にしたいという要望についても、関連医学会と協力して解決して行きたいと思っています。この件については、進捗状況を広報などで定期的にお伝えしたいと思います。

以上、4つの大きな活動指針を述べさせていただきました。多くの課題が山積しております。一つひとつ確実に課題解決に向けて行動していきたいと思っています。

今後とも皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。



平成24年6月厚生労働省から発表された

認知症施策推進5か年計画(オレンジプラン)

- 1) 標準的な認知症ケアパス(状態に応じた適切なサービス提供の流れ)の作成・普及
- 2) 早期診断・早期対応 認知症患者を見る医師や医療機関を増やす。
- 3) 地域での生活を支える医療サービスの構築
精神科病院の「退院支援・地域連携クリティカルパス」の作成。
- 4) 地域での生活を支える介護サービスの構築
必要な介護サービスの整備。
- 5) 地域での日常生活・家族の支援の強化
「認知症地域支援推進員」や「認知症サポーター」を増やす。
家族等支援の「認知症カフェ」を増やす。
- 6) 若年性認知症施策の強化
若年性認知症支援ハンドブックの作成。
若年性認知症の人の意見交換会開催などの事業を拡大。
- 7) 医療・介護サービスを担う人材の育成
「認知症ライフサポートモデル(認知症ケアモデル)」の策定。
「認知症介護実践リーダー研修」や「認知症介護指導者養成研修」及び
「一般病院勤務の医療従事者に対する認知症対応力向上研修」の受講者数を増やす。

ヤンセンファーマ株式会社 様



ご寄付をいただき誠にありがとうございました。

特別賛助会員として入会いただきました。

誠にありがとうございます。

小野薬品工業株式会社 長岡分室 様

エーザイ株式会社 様

※特別賛助会員は、平成24年度から設けられた会員枠です。

「若年認知症専門員」認定研修の紹介 理事 小野寺敦志



当法人の事業として、平成 23 年度に「若年認知症専門員」認定研修を立ち上げました。今回は、この研修の内容を紹介しつつ、研修に参加された方々から示された、熱い思いと現場での取組みの課題について述べて行きます。

「若年認知症専門員」認定研修は、若年認知症者の地域生活をより長く快適に過ごしていくためのケア・支援の提供を行える人材・専門職者を育成することを目的に、当法人の人材育成の貢献と啓発活動の一環としてスタートしました。本研修の目標は、1) 若年認知症本人ならびに家族の生活の現状を講義と体験演習を通して理解する。2) 上記の理解に基づき、若年認知症ケアに必要な知識と技術、社会資源の活用方法を講義と演習を通して習得する。3) 以上の講義演習の知識等を踏まえ、若年認知症本人ならびに家族を支援する専門職として、現場で支援していく心構えを持つ、というものです。この目的と目標を達成するために企画された研修カリキュラムが表 1 になります。

表 1 「若年認知症専門員」認定研修カリキュラム（第 1 期）

日程	時間：AM（10：00～12：00）PM（13：00～16：00）
1 日目	AM 講義：認知症支援・ケアの基礎知識・治療薬について
	PM ①-A 家族会での体験演習 ②-B 講義：支援制度・家族問題
2 日目	AM 講義：若年認知症ケア
	PM 演習：ケーススタディ①
3 日目	AM 講義：BPSD への対応・ケア
	PM ①-B 家族会体験演習 ②-A 講義：支援制度・家族問題
4 日目	AM 演習：ケーススタディ②
	PM まとめ・口頭試験（グループ）・認定証授与式



若年認知症の基礎知識、そして治療（薬物療法・非薬物療法）、家族支援について講義を行う。
医師 宮永和夫先生



社会資源の理解と社会保障制度の活用法について講義を行う。
医療ソーシャルワーカー 木舟雅子先生

初年度の研修は、週末に開催日を固定し、月 1 回の開催で実施しました。講師陣は当法人の理事が担当しました。2 回目と 3 回目の午後のカリキュラムは、参加者を 2 グループに分け、若年認知症家族会「彩星（ほし）の会」への参加するグループと講義を受講するグループに分けたため、表 1 の内容になっています。



本人の能力を活かすケア。アセスメントの要点について講義を行う。
作業療法士 比留間ちづ子先生

本研修のカリキュラムの特徴の一つは、**体験演習**と表現している家族会（彩星の会）への参加を通しての家族との交流、若年認知症ご本人との交流を体験することです。彩星の会は、家族会開催時に、本人交流会を同時並行で実施しています。研修参加者は家族の話、本人との交流を体験しました。



ケーススタディを用いて受講者に若年認知症のケアの理念・本質について問う。
看護師 勝野とわ子先生

初年度の研修参加者は、25 名でした。定員 30 名を満たす形にはなりませんでした。その理由の一つとして、本研修が、外部からの補助等が全くない当法人の自主活動のため、研修費が 8 万円という比較的高額な研修になったためといえます。しかし、この研修費であっても、全国各地から本研修に参加した方が 20 数名あったことは一定の成果いえるでしょう。

初年度の研修参加者の中には、若年認知症の方との交流や支援が未経験の方もいたため、若年認知症者の現状を目の当たりにできたということで、体験演習は非常に評判が良かったといえます。これはひとえに、研修に協力くださった「彩星の会」の会員の方々のおかげといえます。



臨床心理士 小野寺敦志先生による「介護家族の理解」の講義と若年認知症家族会の会員2名のご家族より体験談をお話いただく。実際のご家族の想いを知る機会となる。

本研修は4日目に研修のまとめとして、全体の振り返り、グループ単位の口頭試験を行い、目標の一つである「若年認知症本人ならびに家族を支援する専門職として、現場で支援していく心構え」を持つ働きかけをしています。これは知識学習、参加者自身の自己研鑽に終わらないことが、研修の目的でもある地域への「人材育成の貢献、啓発活動」であろうと考えるからです。

第2回目の研修は、平成24年に開催しました。研修カリキュラムは表1を基本としました。変更点は、初年度の参加者の意見を受け、1回目と2回目を土曜日・日曜日と連続して実施することで、月1回の研修から、月3回で終了する日程にしました。これは、研修参加者が全国から参加するため、参加者の旅費等の経済面の負担軽減につながることを念頭としました。

また、家族会への参加という形をとった体験演習は、家族会との日程調整が難しくなったため、2回目の研修は、家族介護者の方の介護体験の話を聞き、その内容を深める内容に変更しました。合わせて、若年認知症のご本人からのお話を聞く機会も体験演習として設定しました。初回の家族会への参加を通しての体験と内容が変更されましたが、じっくりと家族介護者の話を聞く、本人の現状の話を聞くという体験は、研修参加者にとっては貴重な体験になりました。



第1期生3名による「若年認知症ケアの実践報告」をしていただきました。都内のデイサービスにおいて毎週土曜日に若年認知症コースを設けている「デイホーム太子堂」の笠原様、認知症専門員看護認定看護師の林様からは医療機関内外での相談支援の実践について、若年認知症家族会・彩星の会の取り組みから「喫茶ふれんど」について神保様にお話しいただきました。

第2回目の研修参加者は14名であり、参加者に占める若年認知症の方への支援の取り組み経験者、現在取り組んでいるという現任者の割合は、初回よりも高く8割の人が業務等で若年認知症の方の支援を行っていました。研修参加者数が少人数であったこと、若年認知症の方への支援に取り組んでいる現任者が多かったことから、本研修の参加者は参加者同士の一体感が強かったという印象を受けます。本研修に限らず、複数回でひとまとまりの研修は、参加者同士の交流、ネットワーク作りが副次的な目的となったり、研修の第2の効果となったりする場合があります。本研修参加者も、参加者同士がネットワークを作ることで、ともするとそれぞれの地域で自分だけで孤立してしまうところを、メールや電話などで連絡を取り合い、お互いを支援しあう「仲間」を得たといえます。

この研修修了者のネットワークは、第1回の研修生においても同様であり、第1回研修終了の若年認知症専門員の方が発起人となり、自主的なフォローアップを行うまでになっています。本研修は平成23年度にスタートして、まだ2回の開講のみの実績です。研修を終了した若年認知症専門員の人数は29名とまだまだ少数といえるでしょう。しかし、上記で述べたとおり、若年認知症専門員になった方々は、熱い思いを持った方々であり、それぞれの地域で、時には孤立無援に近い形で、若年認知症の方への支援を実践しています。そのような専門職の方々への支援に、本研修が少しでも貢献しているのであれば、意味のある研修といえるでしょうし、それをめざして研修事業を展開していきたいと思えます。

最後に、「若年認知症専門員」認定研修修了者には、図1のデザインのバッジを贈呈しています。これは当法人の会員の方にデザインしていただいたものです。フクロウをモチーフに、その顔を愛（ハート型）に、体を認知症（Dementia）のDを配し、ヒマワリの黄色、認知症サポーターのオレンジを配しています。フクロウは智慧の象徴です。若年認知症専門員の方々には、愛と智慧と、ヒマワリの様に太陽を常に見据える情熱で、若年認知症の方々への支援に取り組んでもらいたい。そんな願いが込められたものです。このバッジを身につける人が増えて行くように、研修を継続していきたいと思ひます。



図1

★「若年認知症専門員」フォローアップ研修

日程 2013年7月13日(土)午後

会場 戸山サンライズ

同日の午前中には、一般の方を対象にした公開講座を企画しています。

★第3期「若年認知症専門員」認定研修開催予告

日程:2013年10月19日(土)～20日(日)

11月16日(土)～17日(日)

会場等の詳細は、決まり次第当法人のホームページに掲載し、随時募集を開始します。受講希望の方、興味関心のある方は、ホームページを定期的に確認ください。

あなたの町でも若年認知症に関する研修・勉強会をやってみませんか？

サポートセンターでは講師を派遣しています。

当法人では、年に数回、若年認知症の基礎研修を開催しています。また、「若年認知症専門員」認定研修のような4日間のプログラムも年1回実施しています。今後は、全国各地の団体（自治体・法人）に向けて講師派遣や出張研修の充実も図っていきたくと考えております。

これまで「東京都練馬区健康福祉事業本部福祉部（平成25年2月26日実施）」様、「千葉障害者キャリアセンター：千葉県若年性認知症対策総合推進事業（平成25年3月2日実施）」様からのご依頼をいただき、講師を派遣させていただきました。大変好評をいただいています。

研修内容は、若年認知症に関する基礎的な知識から、具体的な治療やケアの方法、利用可能な社会制度の活用、家族会設立手順や運営方法について、本人の想い・家族の想いについて等、研修を主催されるご依頼者様の要望に合わせて研修プログラムをご提案させていただき、講師派遣をさせていただきます。研修規模、費用等は、直接事務局へお気軽にお問い合わせください。



研修・フォーラム 情報

「平成25年度 斎藤正彦先生の老年精神医学教室：認知症の理解とケア」

開催日程：4月24日から12月25日の全8回。会場：戸山サンライズにて。

参加登録制定員 120名。参加費：15,000円。現在、申込受付中：4月15日まで。



4/24(水) 加齢による心身の変化	9/25(水) 高齢者の気分障害
5/22(水) 認知症の理解	10/23(水) 高齢期の妄想性障害
6/25(火) いろいろな認知症	11/27(水) 加齢変化と精神科の薬
7/24(水) 認知症の医療とケア	12/25(水) 高齢者の権利擁護と法制度



全国若年認知症連絡協議会コーナー Vol.1

平成 22 年5月に発足した正式名称「全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会」(以下、協議会)は、現在 32 の団体が加盟しています。協議会が結ぶ全国ネットワークによって、各団体のノウハウを学び、課題を共有し、若年認知症者や家族への支援の充実を図っています。

当法人では、協議会の事務局運営を行っており、年 2 回各団体の代表者が集う「全体会」の開催と、年 1 回、「全国若年認知症フォーラム」の開催(2013 年は奈良県)をしています。

第 6 回全体会

日時:2013 年 2 月 16 日(土)

場所:奈良県奈良市ならまちセンター会議室



《次第》

- 1 新入会ご挨拶
- 2 高度障害認定に関する討議
- 3 厚生労働省梅本様より情報提供
- 4 フリートーク



第 6 回目となる全体会は、参加者 27 団体 40 名が参加されました。前田事務局長による進行で行われました。

まず、継続課題となっている高度障害認定に関して、これまでの経過と問題提起を干場様よりしていただき、全体で討議を行いました。問題の整理をし、今度も事例を収集していくことの必要性を確認致しました。

厚生労働省老健局高齢者支援課認知症虐待防止対策係長 梅本裕司氏にもご参加を頂き、国における若年認知症の最新情報の提供をして頂きました。



平成 24 年 5 月以降に入会された新会員の代表者様からご挨拶いただきました。左から「堺・若年性認知症支援の会アクティブ」室谷様、「認知症の人と家族の会 沖縄県支部準備会」金武様、「デイサービスわだち製作所」西村様、「NPO 法人若年認知症北海道サポートセンター」木村様です。



フリートークでは、7つのグループに分かれて日頃の活動報告、そして課題について出しました。一日だけでは十分な意見交換が出来ないという感想をいただくほど、若年認知症に関する話題は尽きない状況です。

次回の全体会は、平成 25 年 5 月に東京にて開催が予定されています。

第4回全国若年認知症フォーラム in 奈良

「ネットワークで支えよう若年認知症 うちら一緒にいるから大丈夫」
日時:2013年2月17日(日) 場所:奈良県新公会堂 能楽ホール



東京、福岡、群馬と次いで今年は、古都奈良において、300名を超える参加者・協力者の皆様に見守られながら、盛大なフォーラムを開催することができました。「若年認知症サポートセンター 絆や」若野達也様、「朱雀の会若年認知症家族会」大塚幸子様をはじめ、小野薬品株式会社の皆様、奈良県の多くの関係者の皆様のご尽力の賜物です。心より感謝申し上げます。

フォーラムでは、厚生労働省から梅本裕二様より、現在、国が進めている「オレンジプラン」の中から若年認知症に関する説明があり、医療からは岸本年史教授(奈良県立医科大学精神医学講座)より若年認知症に対する「新薬の開発」などの説明がありました。その後、奈良県で行われた若年認知症の実態調査の報告がありました。



休憩を挟んで、「支える・つなげる・広げるーあなたの町でできることー」というシンポジウムで、井口先生(奈良女子大学)の進行のもと、愛都の会の梅原早苗様、神戸市社会福祉協議会の小山尚子様、堺・若年認知症支援の会アクティブの上野光彦様のそれぞれの取り組み事例をご報告されました。



最後は、「支援を超えて・・・」というシンポジウムで、徳田様(NPO 法人認知症フレンドシップクラブ)の進行のもと、井出訓様(放送大学教養学部教授)、岡田誠様(株富士通研究所R&D戦略本部シニアマネージャー)、安川展之様(NEC 情報・メディアプロセッシング研究所)から、新しい視点からの支えあい仕組みについて提案をしていただきました。

ホールの外の会場では、家族会や支援団体の展示や販売が行われ、まるで文化祭のように大変賑わっていました。



フォーラムにご参加いただいた皆様、ご後援いただいた26の団体の皆様、そして、企画から当日の運営等をお手伝いいただいた皆様に心より感謝申し上げます。若年認知症者を支えるネットワークが広がり、一歩踏み出す力が湧くフォーラムとなりました。

ゆうゆうスタークラブ活動報告 理事 勝野とわ子

ゆうゆうスタークラブの当初の目的は、認知症の診断後介護保険サービスを受給するまでの空白期間に、当事者の方たちが、少しでもより良く人生を仲間と楽しむ「居場所」を提供することでした。また、日頃介護に奮闘されているご家族には、このサービス実施時間を自由にお使いいただき、少しの時間でも生き抜きをしていただきたと考えていたのです。ところが、ご家族は自然に、ご家族同士、喜びや悩みを持ち寄り経験者が自分の体験を話して他者を支えていくピアサポートの場として有効な機能を果たすようになっていったのです。現在のゆうゆうスタークラブは、認知症当事者と介護家族両者のための支援プログラムを提供しています。その取組の一つとして、今年度は、「熱海温泉一泊旅行プログラム」を計画し実施しました。熱海温泉の湯けむり、カラオケ大会、ミカン狩りの青い空と海、食事もおいしく、ご家族が普段あきらめておられた「旅行」が可能となりました。不思議な体験ですが、参加した誰もが心の洗濯ができたように思います。これからも、認知症当事者とご家族、そしてサポートスタッフそれぞれがストレスを解消しパワーアップできるプログラムを開発していきたいと思っています。



《ゆうゆうスタークラブ概要》

ゆうゆうスタークラブとは、当法人が運営する若年認知症者専門のミニデイサービス(介護保険対象外)です。平成18年6月より開始しました。これまでに65回の実績を重ねております。参加する若年認知症のご本人は、およそ7名です。ご家族は同じ建物の別室で懇談会を開いています。活動を支えるスタッフは、看護、介護等の専門職が中心です。小規模でアットホームな雰囲気があります。ぜひ、一度ご参加・見学にお越しください。

- ◆代 表 勝野とわ子(首都大学東京 健康福祉学部)
- ◆活動日 毎月第2日曜日 11時～15時30分 (1月・8月はお休み)
- ◆活動拠点 ゆうゆう馬橋館 〒166-0003 高円寺南 3-16-14
- ◆参加費 2,000円 ◆お問合わせ 事務局 03-5919-4186

◎編集後記



事務局を担当させて頂くようになって5年目となりました。日頃から支えて下さっている会員の皆様に情報をお伝えできず、申し訳なく思っておりましたが、やっとこの通信を契機に当法人の活動状況をお伝えできる環境が整いました。若年認知症と向き合う人へ、一人ひとりに合ったケアや支援が届くように、これからも努力して参ります。どうぞご支援を宜しくお願い致します。(田中悠美子)



何も分からないまま、事務局の仕事をさせて頂くようになってこの3月で1年が経ちました。田中さんはじめ皆様に教えていただきながら、本当に多くのことを学んだ一年でした。少しずつ色々なことを理解できるようになり、これからはお役に立てるように一つひとつの仕事を大切に頑張っていきたいと思っています。何なりとお申し付けください。(遠藤百合子)

特定非営利活動法人若年認知症サポートセンター 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-25-3 エクセルコート新宿 302号

TEL: 03-5919-4186 FAX: 03-5368-1956

メール: info@jn-support.com ホームページ URL: <http://jn-support.com/>

創刊号 2013年3月18日 発行【発行責任者】宮永 和夫【編集責任者】田中悠美子